

関西広域産業共創プラットフォーム News Letter

2023(令和5)年
12月末発行

● 関西イノベーションイニシアティブ (KSII) との連携について

KSIIは、関西地区を中心とした大学発スタートアップ・エコシステムの形成と、ゼブラ企業(注1)の創出を推進するプロジェクトで、公益財団法人都市活力研究所が創出エリア支援機関となり、経済産業省の「産学融合拠点創出事業(J-NEXUS)」に採択されています。関西の大学・経済団体・金融機関・自治体等の産官学金の90機関(2023年12月時点)がプロジェクトに参画し、オール関西の力を結集して事業を進めているとのこと。

関西広域産業共創プラットフォームでは、このKSIIとの今後の連携方策等について、先般意見交換を行いました。具体的には、KSIIの活動状況や、KSIIが支援しているセラミック3Dプリンターの開発・製造・販売を行うスタートアップ(「エスケーフイン社」(<https://www.sk-fine.co.jp/>))との連携等について意見を交わしました。さらに、KSIIが支援している関西エリアの大学発スタートアップ集(WEB版)についてもご教示いただきました。下記ウェブサイトから内容を確認できますので、ぜひご覧いただければと思います(右下のQRコードからもお入りいただけます)。<https://my.ebook5.net/ksii/StartupsCollection/>

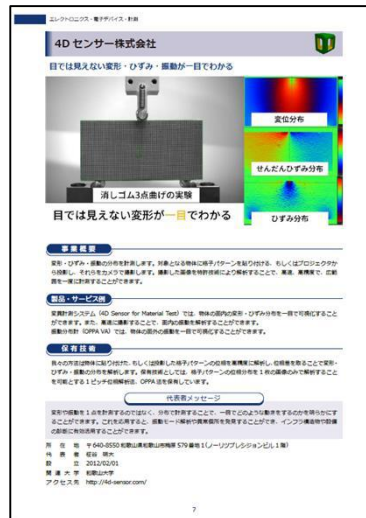
(注1)ゼブラ企業：持続可能な成長により地域の社会課題を解決するスタートアップ



Kansai
Innovation
Initiative

<ご参考> スタートアップ集イメージ (抜粋)

▼ スタートアップ集はこちら



～事務局便り～

あらためて当PF事業の名称について考えてみたいと思い、名称に使われている「共創」の意味を「知恵蔵」で調べてみました。その結果、「サービスを創り上げること、実際に商品を開発したり、改良したり、普及させること」と書いてありました。これは、まさに当事業の目的そのものです。

類似の言葉に「協創」があります。この意味を調べてみると、「それぞれの主体が持つ価値観や個性を尊重しながら協力して課題解決をする仕組み」とあります。これも大変魅力的な言葉です。共創は実際の事業の出口を意識した言葉であるのに対し、協創は、そこに至る連携のプロセスを表現しているように思います。当事業でいえば、連携CDの日々の仕事がちょうど協創ということでしょうか。

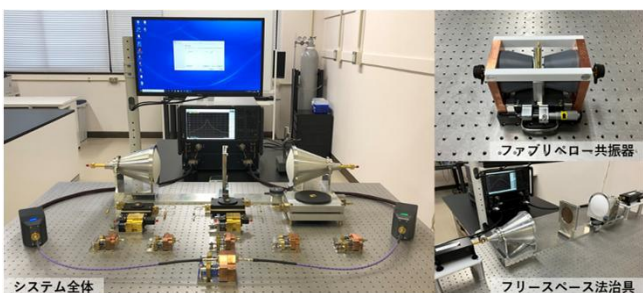
いずれにしても、「協創課程を経て、実際の経済価値を共創する」ことが当事業の本質かと思います。新年を迎えるにあたり、事業名称に託した、深く重い使命を再確認しながら、関係者一同、さらに努力を重ねて行きたいと思っております。

本ニュースレターをご覧になる皆様も、どうぞよいお年をお迎えください。

●全国公設試で初！ Beyond5G 材料開発用1～170GHz 誘電特性評価システムを設置！

(大阪産業技術研究所・森之宮センター)

大阪産業技術研究所は、この度公設試としては全国で初めて、森之宮センターの先進電子材料評価センター内に、**170 GHz** まで対応可能な高周波誘電特性評価システムを設置しました。令和5年12月から順次、材料開発支援サービスを開始し（依頼試験での対応は令和6年4月の予定です）、素材や材料の開発で次世代Beyond 5G 高速通信社会の実現をめざす化学・材料関連企業を、技術で支援します。



※詳しくはこちらをご覧ください。

https://orist.jp/dl/morinomiya/shintyaku/20231207_press.pdf

●風合い自動計測システム供用開始

(京都府織物・機械金属センター)

当センターでは、織物等の「風合い」を定量化することが可能な試験機「風合い自動計測システム」の供用を開始しました。

「風合い自動計測システム」は主に、織物の5つの力学特性（引張、せん断、曲げ、表面、圧縮）を測定し、その織物もつ風合い値を算出するものです。この装置が開発されるまでは、長年経験を積んだ職人や専門家が判断していましたが、「なでる」、「引っ張る」、「折り曲げる」、「指で押す」といった人間の動作を装置が行い、主観的であいまいであった風合いを、客観的な数値で表すことが可能となりました。

※本システムは公益財団法人JKAの補助を受けて導入したものです。



※詳しくはこちらをご覧ください。

http://www.pref.kyoto.jp/oriki/kiki_conewinder.html

●波長分散型蛍光X線分析装置を 導入

(京都府中小企業技術センター)

波長分散型蛍光X線分析装置は、試料にX線を照射したときに発生する蛍光X線を分光することにより元素を分析します。

金属やセラミックスなどの固体材料に含まれる元素を非破壊で、迅速かつ高感度に分析することができます。製品の検査や開発などに幅広くご利用いただける装置です。

【性能】

測定範囲	Be～Cm
X線管	Rhターゲット、最大定格4kW
照射方式	上面照射
最大試料サイズ	Φ50mm×30mm（試料ホルダーに設置可能なもの）

※令和4年度公益財団法人JKA補助事業（競輪補助物件）で導入



※詳しくはこちらをご覧ください。

<https://www.kptc.jp/kiki/543/>

●日本食品科学工学会第70回記念大会 (R5.8月開催)において、当センター職員 が同学会奨励賞を受けました

(和歌山県工業技術センター)

【受賞の概要】

○受賞名

日本食品科学工学会奨励賞

○関係職員

食品開発部 主査研究員 片桐実菜

○業績題目

小麦粉及び地域農産物の加工特性に関する研究

○業績の概要

小麦粉や地域農産物を対象にした、食品加工特性に関する研究成果が評価されました。

小麦粉については、小麦粉製品の特性に大きな影響を与えるドウ（生地）の物性を内在酵素に着目して検証し、小麦粉製品の新たな調整法や安定化に寄与する知見を示しました。また、わが国の伝統的な小麦粉加工品である手延べ素麺について、機械麺との違いや製造後の貯蔵に伴う物性変化を解明しました。さらに、梅を対象に、梅内在ペクチンや香気成分の加工工程中の変化を解析し、新規梅加工品の製造方法を確立しました。

※詳しくはこちらをご覧ください。

<https://www.wakayama-kg.jp/news/2023/10/70.html>